

平成 22 年度 成績概要書

研究課題コード：728211（受託研究（民間））

1. 研究成果

- 1) 研究成果名：組勘（クミカン）データを見える化する経営管理ツール
（予算課題名：畑作・酪農経営の収益構造の解明）
- 2) キーワード：経営管理、経営改善、組勘、クミカン、見える化
- 3) 成果の要約：開発した経営管理ツールは、農協における取引を記録した組勘（クミカン）データから、資金収支を見える化したグラフを自動的に出力するものである。経営全体からの視覚的な問題の把握が可能であり、経営改善に向けた具体的な手立ての整理に用いる。

2. 研究機関名

- 1) 担当機関・部・グループ・担当者名：十勝農試・研究部・生産システムG・白井康裕
- 2) 共同研究機関（協力機関）：（十勝管内畑作経営研究会）

3. 研究期間：平成 21～22 年度（2009～2010 年度）

4. 研究概要

1) 研究の背景

今後の担い手となる経営体の育成が重視される中、農業経営者が誇りと意欲を持って経営の改善・発展に取り組み、経営者としての自覚を高めることが期待されている。このため、指導機関では、農業経営における経営管理の高度化に向けて、経営面での支援を充実させることが急務である。

2) 研究の目的

本研究では、農業経営における経営管理の高度化と指導機関における支援の充実に役立てるため、収支の記録である組合員勘定制度（以下：組勘（クミカン））のデータを見える化する経営管理ツールを開発する。

5. 研究方法

1) 経営管理ツールの開発

- ・ねらい 組勘（クミカン）データを使用した経営管理ツールの開発コンセプトを設定し、設定されたコンセプトに基づき経営管理ツールを開発する。
- ・試験項目等 開発の際に以下の特徴を反映させた。
①簡便な操作性、②容易に改造が可能、③独自のシステム設計が可能（入力・出力）

2) 経営管理ツールの活用例の提示

- ・ねらい 開発した経営管理ツールを用いて経営で生じている問題を鮮明にし、経営の改善に役立てる際の手順を提示する。
- ・試験項目等 畑作専業経営（50ha）を事例とし、基準値を前年の値とした自己比較を実施

6. 研究の成果

- 1) 開発した経営管理ツールは、耕種・畜産といった経営形態を問わずに使用できるものであり、9 枚の Microsoft Excel シートから構成されている（表 1）。
- 2) 経営管理ツールは、CSV 形式の組勘（クミカン）データを Microsoft Excel のシートに貼り付けるのみの簡便な操作性を実現させた他、集計される摘要コードや出力されるグラフの表示項目を利用者が任意に設定できるようにしている。更に、Excel 上でのシート操作により、入力・出力の組み合わせを自由に変更できるといった独自のシステム設計が可能である。
- 3) 経営管理ツールは、基準値との相違点を鮮明にし、当該経営の問題が把握できるように、二つのグラフを並列して示している（図 1）。基準値として営農計画や過年度の実績などを入力し、当該年の実績値と比較することで、自己比較が可能となるとともに、基準値として優良農家の実績や地域に所在する経営の平均などを入力し、当該経営の実績値と比較することで、他者比較が可能となる。
- 4) 出力されるグラフは、左から順に収入（農産、畜産、その他）、支出（費用と差引余剰）、差引余剰（資金返済と可処分収支）、運用（家計費、長期共済、農外支出、資産購入、余剰額）、資金残（最終的な資金余裕額）の軸からなり、組勘（クミカン）取引における資金の流れを可視化できる。
- 5) 経営管理ツールを経営の改善に役立てる際には、農業経営者が次期の計画に反映させることを目的に、経営全体から問題を視覚的に把握し、問題が生じている部分について詳細な分析を行うことで、改善に向けた具体的な手立てを整理する。
- 6) 具体的には、以下の手順をとる（図 2）。第一に、資金収支を見える化したグラフにより、全体収支、収入と費用の水準、資金の運用状態について、基準値との相違を視覚的に把握する。第二に、データを営農科目ごとに自動集計した【資金収支票】のシートにおいて、基準値との差額が大きな営農科目を特定し、違いが生じた原因を整理する。第三に、詳細な検討が必要と判断した費目については、「農産物生産費集計システム」等を利用し、費用を作目に分解することにより、作目ごとに問題の原因を整理する。第四に、問題があると判断した作目については、「技術関連図」等を用いることで、生産工程全体の視点から技術的な問題を整理する。

＜具体的データ＞

表 1 経営管理ツールを構成する各シートの機能

シート名	機能
入力	元データ 組勘(クミカン) データを貼り付ける入力用のシート
	比較対象 基準(あるべき姿)となる比較対象の値を手入力するシート
データ	変換データ 組勘(クミカン) データを分析用に変換するシート
集計	集計用 組勘(クミカン)コード(項目)ごとに月別に発生額を自動集計するシート
	集計結果 発生額を大分類(営農コード)ごとに集計するシート
	資金収支票 組勘(クミカン) データを支出(借方)と収入(貸方)に整理したシート
出力	資金収支 資金収支の実際の取引額を見る化したグラフのシート
	資金収支(基準値100) 基準値の収入額を100とした指数により資金収支を見る化したグラフのシート (計画値や過年度実績といった自己との比較時に有効)
	資金収支(指数) 基準値と実績値について、それぞれの収入額を100とした指数により資金収支を見る化したグラフのシート (収入の水準が異なる他者との比較時に有効)

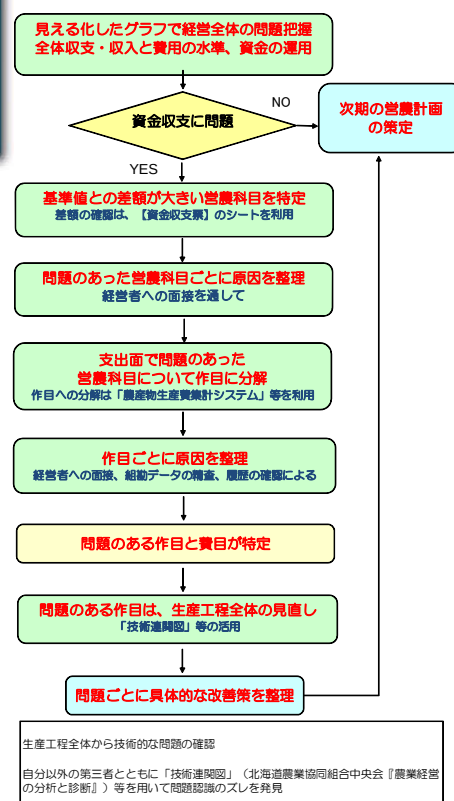
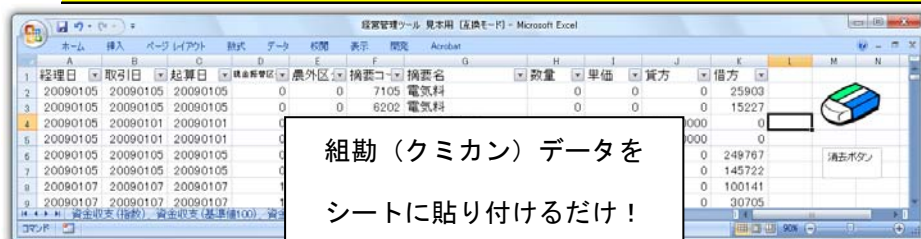


図 2 経営管理ツールを
経営の改善に役立てる際の手順

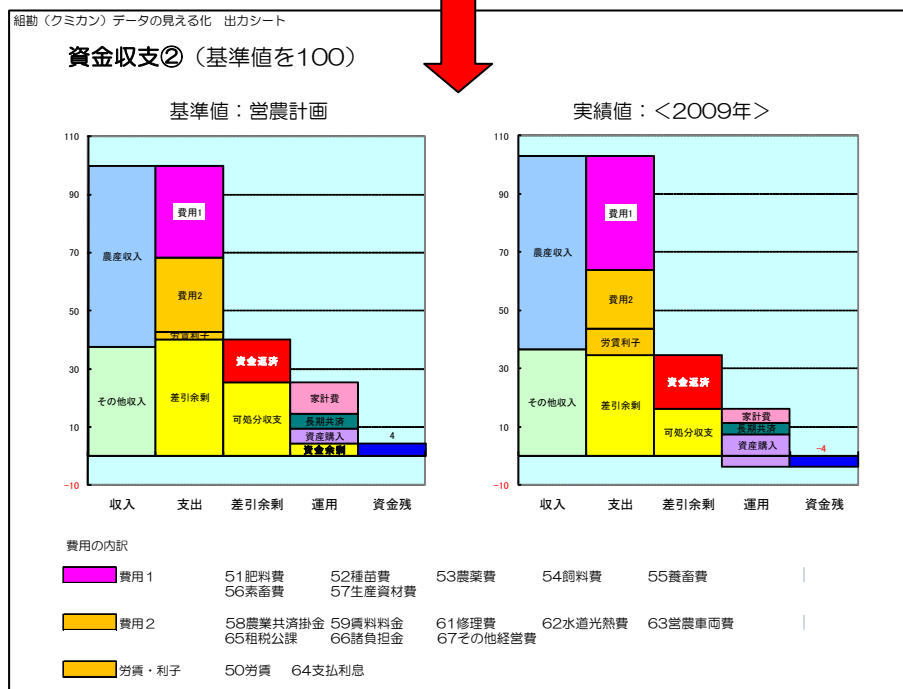


図 1 開発した経営管理ツールの入力・出力

用語解説 組勘(クミカン): 北海道独自の決済制度であり、その取引内容は営農管理情報として提供される。
技術連関図: 作目の安定生産に必要な技術項目を網羅した連関図である。最新のものは、北海道農業協同組合中央会『農業経営の分析と診断』に掲載されている。

7. 成果の活用策

1) 成果の活用面と留意点

- ・開発した経営管理ツールは、農業経営者に改善の必要性について、認識を強く促す「分かりやすい」情報を提供できる。
- ・組勘(十勝農業協同組合連合会)とクミカン(北農電算)の双方に対応している。
- ・見本用ファイル(Excel2000~2010 動作確認済み)と説明資料をホームページにて公開予定である。
- ・使用する組勘(クミカン)データは、農協ごとに営農摘要コードが異なるため、農協ごとにコード番号を設定する必要がある。

2) 残された問題とその対応

- ・経営管理ツールは、組勘口座を経由しない経済活動については把握できない。この点については、新規課題「青色申告書を活用した畑作・酪農経営の経営管理手法の開発」にて対応する。